

神戸市会議員



岡田ゆうじ



2021年3月4日 神戸市会予算特別委員会

自由民主党神戸市会議員団市政報告

2022. 4

No.39

孤独死ゼロへ

コロナ禍以前は、地域のふれあいのまちづくり協議会等が運営して下さっている食堂や喫茶に、よく顔を出させていただいていた。「1か月ぶりに介護士以外の人間と話をした」「外出したのは何週間ぶりだろう」と笑顔で話す高齢者の方らと交流し、戦後に遡る地域の昔話を伺ったものです。

しかし、ふれまちやボランティア食堂も、長い所ではかれこれ丸2年以上、開催されていません。月に一回、週に一回の貴重な外出と、外部の人間との交流の

機会を奪われた高齢者の多くは、今一体どんな生活を送っているのか、不安に思います。コロナ禍は、人と人とのつながりまで寸断したのです。

垂水区内各所でオールドニュータウン化、少子高齢化が進んでいますが、その中でも舞子地区で、舞子郵便局長他、地域の代表の皆さんで「舞子地区ささえあい実行委員会」を立ち上げられ、あんしんすこやかセンター、垂水警察署、社会福祉協議会等と連携し「ゼロ孤独死」運動を展開されています。

大変素晴らしい取り組みです。行政もこうした孤独の問題に取り組んでいかなければなりません。地域が率先して声を上げて、力を合わせて孤独の問題に取り組んでおられるのを、市や議会も全面的に応援して参りたいと思います。

気付く、防ぐ、見守る

**〇孤独死**

ゼロこどくし

舞子あんしんすこやかセンター  
☎787-5231  
月曜～土曜 9:00～17:30

西舞子  
舞子坂

本多間あんしんすこやかセンター  
☎783-5030  
月曜～土曜 9:00～17:30

たるみけいさつしよ 垂水警察署  
☎781-0110

舞子地区ささえあい実行委員会

舞子地区の「ゼロ孤独死」ピラ

イギリスは世界で初めて「孤独担当大臣」を新設しました。「孤独は主観的な感情の領域、個人の内面の問題であり、政府が介入すべきものではない」との意見もあったようですが、「孤独は社会的対応が必要な問題だ」とする主張の方が勝ったようです。

「孤独は不名誉」という考えを払しょくすることも重要です。多くの人は、自分が孤独だと認めることは、「弱さをさらけ出すこと」「他人に迷惑をかけること」だと感じています。イギリスで国を挙げて展開されている「エンド・ロンリネス」キャンペーンでは、孤独から抜け出す第一歩は「孤独だと感じる自分を責めないこと」だと提唱しています。

わが国の2020年度の年間自殺者数は2万919人で、2009年の世界金融危機以来初めて、11年ぶりに増加に転じました。特に女性と青少年の自殺が増えており、文科省の発表によると同年に自殺した小・中・高生の数は前年より約40%増加して479人。特に女子高生は138人で、これは前年67人の倍以上とのことです。

2021年2月、日本政府は英国に倣い、内閣官房に「孤独・孤立対策担当大臣」を設置しました。世界で2例目の「孤独担当大臣」です。そして神戸市では、全国で初めて「孤独担当局長」を設置し、コロナ禍で深刻化する孤独や孤立の問題に、自治体として対処しています。

少し英国やわが国の政府と趣が異なるのは、「孤独担当局長」が「こども未来担当局長」と兼務であり、高齢者の孤独のみならず、若者・こども世代の孤独も重視している点です。

具体的には、「ひきこもり支援室」の創設、こども・若者ケアラー支援のための専門部局と相談・支援窓口の設置、市内163の全小学校区でのこども食堂など「こどもの居場所づくり」設置の計画策定など進めると共に、各行政区の社協にコーディネーターを配置し、居場所づくりを担いたい人と応援したい人をつなげる事業を展開していきます。

ハーバード大では「人間を幸せにするのは何か」という主題で80年余にわたる縦断研究を実施しています。現在その研究に携わるロバート・ウォールディング博士によると、その解は極めてシンプル。即ち「身近で良い人間関係」とのこと。孤独の正反対です。

人生100年時代、長い「孤独」の時間が私たちを待っています。皆で力を合わせ、知恵を出していきましょう。



孤独・孤立化対策について訴える  
(2021年3月4日 神戸市会予算特別委員会)

